

メディアアート  
えのすい×TeamLab 見学レポート

所属：情報学部 情報メディア学科

学籍番号：1323089

氏名：古田 真緒

メールアドレス：s1323089@cce.kanagawa-it.ac.jp

2015年12月23日に新江ノ島水族館へ行きました。16時30分頃に入場し魚や内装を見たあとで TeamLab のプロジェクションマッピングを体験しました。

入り口付近には水中の気泡を感じさせるような青いボールが数多くありました。これらは天井や壁から糸状のもので吊るされていて、中にある光源によって青く光っていました。このボールの中の光源は同年12月25日まで行われていた TeamLab のプロジェクションマッピング作品「ナイトワンダーアクアリウム 2015」に連動しています。



図 1:入り口付近の内装

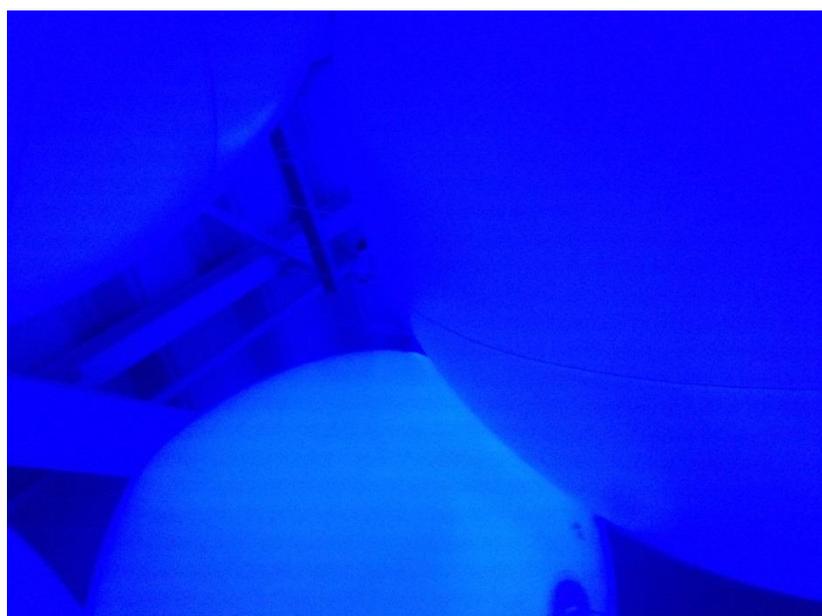


図 2:ボールの天井に吊るされている部分

ナイトワンダーアクアリウム 2015 は水槽やその周りにプロジェクションマッピングをし、魚の位置によってマッピングする内容を変化させると説明していました。よってまったく同じ内容は無い唯一の体験として提供されるそうです。

2分ほど説明を行ってから10分間のプロジェクションマッピングが始まります。水槽の周囲や水槽内の魚に光が当たることで美しい表現ができている一方、それによって魚に与えるストレスやマッピングした際の映像の切れ目が気になりました。

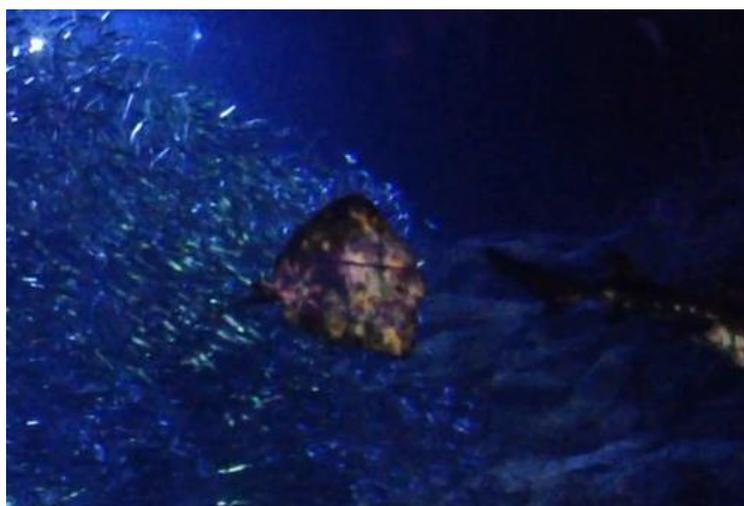


図 3: プロジェクションマッピングの切れ目が映っているエイ

水族館の外へ出ると光った飲み物を飲んでいる人が多数いました。最初は水族館が提供しているものだろうと思っていましたが、これも TeamLab と共同で提供しているようでした。1杯 500 円~700 円で販売されていました。



図 4: インタラクシオンオーシャンバーのドリンクの解説

実物の潜水艦しんかい 2000 とその周りのスクリーンへのプロジェクションマッピングもありました。スクリーンの中を金色の魚が泳いでいく映像が投影され、しんかい「」自体にも映像が投影されていました。

他のお客さんがスクリーンに引っかかってしまう場面が何回もあり、それによってスクリーンが誤って収納されてしまう場面もありましたので、岩を模した壁自体に投影するとより良くなるのではと思いました。



図 5:映像を投影されるしんかい 2000

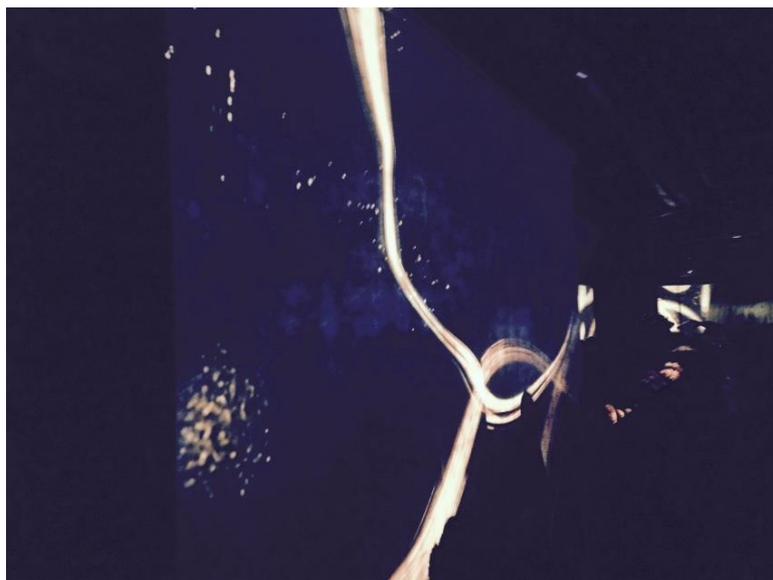


図 6:しんかい 2000 囲うように配置されたスクリーンと投影された映像

お絵かき水族館を体験してみたかったのですが、この時点で閉館までの時間と行列の量を考えると間に合いそうになかった為今回は見送りましたが、次回また来た時にまだ展示していたら優先的に体験したいと思います。



図 7:閉館間近のお絵かき水族館

TeamLab のプロジェクションマッピング作品はマッピングの切れ目や順路を狭くするスクリーンの配置など、展示の面では少し足りない部分があったと思いました。

しかし、映像や周囲の光の操作などを実現する技術力がとても高いと感じ、どうやって実現しているのかを考えながら体験していました。考えても答えは出てきませんでしたが、技術職を目指している一人としては強く惹かれる体験ができたと思っています。見学を課題にしてくださってありがとうございました。